

平成25年度 学校経営方針

練馬区立立野小学校 校長 岡本 昌子

- | |
|--|
| 本校の教育目標 ○ あたたかい心をもつ（徳）
○ すすんで学ぶ（知）
○ つよい体をつくる（体） |
|--|

◇ はじめに **学び合い・高め合う集団を目指して**

～子供も交流 教師も交流～

着任1年目、私は、学校教育を「学び合いの場」と位置付け、学校は集団で学ぶ場であるからこそ、学ぶ楽しさがあり、学ぶ意欲も大きくなると述べました。一人では我慢できないことも友達と一緒になら我慢してやり続け、最後にはやり遂げ達成感を味わうことができます。前向きな集団であれば子供たちの学びはどんどん深くなり、自分の居場所に安心感をもてない集団では、驚くほどその学びは浅くなります。学校は、子供の豊かな学びを保障するために、**温かな集団創り**に努めなくてはなりません。

2年目は、「日々の生活の充実」を掲げました。子供たちは、同年代の子供たちの中で切磋琢磨し、学校という集団や先生方の対応によって、社会生活を疑似体験します。学校は失敗してよいところ、叱られてよいところです。未熟さや不十分さを笑われることなく、何度でもやり直しがきくところです。「良い・悪い」「誉められる・叱られる」ことを素直に受け止めることのできる、この小学生という時機に、あいさつや言葉遣いをきちんとさせ、失敗を恐れず懸命に努力すること、汗して働くことや人のために尽くす尊さなどを、しっかり鍛え、心に沁み入るように教えていきたいと思えます。当たり前のことを当たり前にする日々の生活の充実こそが宝であり、「**よく学び、よく遊び、よく働く**」ことをいとわない学校の風土を創り上げていきたいと考えます。

そして、3年目は、『基礎・基本は、すべての学習の原点』を学校経営の指針に掲げ、「守（しゅ）・破（は）・離（り）」という言葉为例に、学習における基礎・基本の大切さを述べました。

「守（しゅ）」とは…師に教えられたことを正しく守りつつ修行し、それをしっかりと身に付ける。

「破（は）」とは……師に教えられしっかりと身に付けたことを自らの特性に合うように修行し、自らの境地を見つける。

「離（り）」とは……それらの段階を通過し、守にもとらわれず破も意識せず新しい世界を拓き、独自のものを生み出せということ。

学校全体でこの『学びの基礎・基本』つまり『学びの型』を大切にしていきたいと考え、「集まったらしゃべらない」「挨拶はきちんと相手の顔を見て、相手に聞こえるようにする」「掃除や係の仕事はきちんとする」「集合時刻を守る」「自分を大切に、友達も大切に」「決められた課題は最後までやり遂げる」という、**当たり前のことを学校全体で徹底**していきます。

そして、着任4年目の今年は、「**学び合い・高め合う集団を目指して ～子供も交流 教師も交流～**」を経営の柱に掲げたいと思えます。

今年度は、練馬区教育研究校の指定を受け、国語科の研究発表を行います。本校の研究の目玉は、「**交流**」です。そこで、先日、研究推進部より提案された研究の流れを、私たち教師集団も自ら実践する年にしたいと考えます。つまり、指導者自身が自らの教育観や指導法について他の教員と大いに交流し、その結果、自分の指導についての考えを深めたり、広げたりすることを実践したいと思えます。

今年の学校経営の柱は、「**大人も交流・子供も交流**」です。

1 学校経営の基本方針

学校は、何よりも子供のためのものです。子供たちの健やかな成長のために、教育目標達成のために、次の3つの基本方針をもって、全教職員が協力し、組織の一員として動ける学校でありたいと思います。

- (1) 認められ・鍛えられ・活かされる子供
- (2) 学び合い・高め合い、授業で勝負する教師
- (3) 保護者・地域に開く学校

2 校長としての姿勢

学校経営・運営の最終責任者として職責の内容と重みを自覚し、「全ての事柄の責任は自分に帰すること」を肝に銘じて、誠実に全力を投入したいと思います。子供たちには愛情を、職員には信頼と感謝の念をもち、共に悩みながら歩んでいきたいと考えています。保護者・地域の方々には、子供たちの成長と幸せを共に願う立場で、学校へのご理解とご協力をいただきながら、「地域の学校」として信頼の得られるように努めます。

- (1) 校長としての立場で、子供たち一人一人の顔が見える(分かる)指導を心がけます。
 - ・日々、校内巡視と授業観察に努めます。先生方も必要に応じて、校長を教室に呼んでください。『直接、校長先生に誉めてもらえた』が少しでも子供たちの学ぶ意欲の向上につながればと思います。
 - ・今年度も朝の欠席調査表の受け取りを担当し、子供たちに職員室への入室の仕方や挨拶の指導をします。子供の名前と顔も一致させます。
- (2) 開かれた校長室を目指します。

(子供や保護者の皆さんとのコミュニケーションを大切にします。)
- (3) 全校朝会講話は、子供たちに直接語りかける場として大切にします。

(必要に応じて、校長室廊下に掲示し、先生方へ資料を配付します。)
- (4) 学校の顔として、保護者や地域の信頼に応えられるよう誠実に対応します。

3 基本方針を具現化するために

- (1) 認められ・鍛えられ・活かされる子供
 - ①人権教育は、全ての教育活動の根幹です。
 - ※呼び捨てをなくし、さんづけで呼ぶ指導をします。
 - ※年間を通じて、返事・挨拶指導や入室指導を徹底します。
 - ②集団生活の基本や学習規律の確立は、学校生活の基盤です。
 - ※交流できる学級・交流の楽しさが十分味わえる学級を創ります。
 - ③「聞く」「話す」「読む」「書く」指導は、全ての学習の基本に置きます。
 - ※特に話す活動においては、「声のものさし」を活用した指導をします。
 - ④個に応じた指導を心掛けつつ、児童に与える課題に対しては、「最後までやり遂げさせる。」「最後まで指導を続ける」姿勢をもち、確かな達成感を味わわせます。
 - ⑤指導と評価の一体化を図り、きめ細やかな指導を心がけます。
 - ⑥外遊びを奨励し体力の向上を図ります。
 - ※中休みは全員が外遊びとします。全校一斉で子供を校庭に出し、体を動かし様々な遊びを体験させたいと考えます。「外で遊べる子」を育てていくことは、児童の体力向上と人間関係作りにおいて大切な取り組みです。原則として、委員会の仕事や学級内の係活動も昼休みに設定し、教師も時間を見つけて、児童と共に休み時間を過ごします。
 - ⑦児童の発言を常に共感的に受け止め、温かな学級創りに努めます。
 - ⑧儀式的行事・朝会・集会・避難訓練等を、学校への所属感を高める大切な場と位置付け、指導内容の充実を図ります。
 - ※代表児童へは、十分な事前指導をお願いします。(出入り、立ち方、礼、話し方等)
 - ※代表児童は、可能な限り、ノーマイク・ノーペーパーで話します。

(2) 学び合い・高め合い、授業で勝負する教師

①年間指導計画に基づいた「週ごとの指導計画」を提出します。

※月曜日の8時15分までに校長机上に提出

教科・単元名・本時の目標・全体の時間数及び時数を記入

算 数	分数のたし算とひき算を考えよう 3/15 ・同分母の真分数どうしの加法の計算の意味と仕 方を理解し、その計算ができる。 (ジュースのパックとびん)
--------	--

※「指導記録」の欄に、学級の様子や自らの授業の課題を記入します。

※校長よりのコメントは、「指導記録」を受けて、前週の欄に記入します。

②研究授業を中心に国語の校内研究を推進し、教師相互の授業力を高め合います。

※練馬区の研究奨励校の指定を受け、今年度はその2年目です。全員が研究主題に関わる授業を公開します。

③授業力向上に向けて、具体的な目標を3つ設定し日々の授業の改善に努めます。

例 4月～7月 児童に興味・関心をもたせる導入教材の工夫

8月～12月 1単位時間の流れがはっきり分かる板書

1月～3月 児童の思考を深める発問の工夫

④年3回以上45分単位の授業観察を実施します。上記の目標を達成するための具体的な手立てが見える授業をします。授業観察は全て公開とします。積極的に参観し、授業力を高めます。

⑤毎日の教材研究を何よりも大切にし、日々の授業の改善に努めます。

⑥チャイム着席、チャイム始業で学習時間を確保し、基礎・基本の定着に努めます。

⑦授業の始めに授業のめあてを示し、終わりには一単位時間ごとの学習のまとめを板書します。

⑧「考える力の育成」を目指し論理的な思考や言語力・表現力の向上に努めます。

⑨創造的・体験的な授業を通して、学習意欲を高めます。企業・地域・保護者によるゲストティーチャーを活用します。

⑩学習意欲を向上させるために、児童のノートや作品に賞賛や励ましのコメントを付けます。

⑪教育会等の各種研究会に積極的に参加し、教師としての資質向上・研鑽に努めます。

(3) 保護者・地域に開く学校

①保護者からの声には、誠実に対応し、必要に応じて管理職へ早めに報告します。

②保護者との連携をより強めるために、学級通信を通じて学級の様子を保護者へ伝える努力をします。

③学校評価を実施し、結果を公表します。

④PTA や地域の行事へ参加します。

(4) その他

①サービス上の課題

- ・交通手段は・体罰の禁止・校内での飲酒禁止、校地内は禁煙
- ・自動車事故・金銭事故・セクハラ事故・個人情報の適切な管理

②危機管理への対応

- ・「報告・連絡・相談・記録」の習慣を励行

5 終わりに

始業式の子供たちの様子、大変落ち着いていました。明るく、やる気に満ちたその表情から、この3年間の先生方の指導の積み重ねを感じ、たいへんありがたく思いました。学校経営の主体は、校長を中心とした全教職員です。よりよい学校教育の実現のためには、学校で働く全ての人の協力が不可欠です。職種・職域の違いはあっても、教職員一人一人が経営参加意識をもち、能動的に、創造的に、それぞれの職務を遂行してくださることを期待しています。

私自身も、自分しかできないこと（自分がやらなくてはいけないこと）、自分にもできることを模索しながら、校長職4年目を前向きに務めたいと思います。